



神明中だより

<http://www.suginami-school.ed.jp/shinmeichu/>

教育目標 創造・鍛錬・共生 校訓 自主・自律

令和4年2月1日

1月号

杉並区立神明中学校

杉並区南荻窪2-37-28

今年もコロナ禍の中で

副校長 大柴 浩一

あけましておめでとうございます。今年もよろしく願いいたします。

一昨年の一月の新聞記事には、国内初のコロナ感染者が確認されていました。高校生は、休校のなかパソコン画面を挟んで先生や友達に向き合い、仲間との旅行や部活も控え、大切な何かを生むはずだった時間を諦め、受験に挑んでいました。新型コロナの感染者が国内で初めて確認されて二年。折からオミクロン株が猛威を振るう今年のスタート。

ある状況に慣れてしまうと、異なる状況に違和感を覚えるようになるのだろう。マスクを忘れて外出しようとする、気持ち悪さを感じるようになって久しい。口元がスースーして「何か足りない・・・」と気づかされる。コロナ禍が長期に及び、マスクが顔の一部になったかのようだ。

寒空の下で花も葉もない枝をふるわせる元日の桜を、作家の竹西寛子さんが随筆に描いている。〈近づいてよく見ると、枝は一本ごとにしっかり粒立っていて、(中略)陽射しと暖かい風を待ちながら黙々と冷気に耐えている〉(『夜の桜』)。この元旦も幾多の耐える姿があった。遠からず花咲く受験生である。第一の関門として、15日、16日に大学入学共通テストが実施された。半月足らずで状況は一変した。コロナの新規感染者は元日の30倍以上に膨らんだ。試験を受けられない受験生への異例の救済策も打ち出されたが……。不安と動揺が広がったのも無理はない。そんなときに気持ちを落ち着かせることができれば強い。スピードスケートの金メダリスト、清水宏保さんが試合前の緊張にどう対処したかを自著で振り返っている。両手で鼻と口を覆う。吐く息が手のなかにこもる。自分の体温や匂いを感じ、落ち着きを取り戻すのに役立ったという。耐えた時間は裏切らない。桜もアスリートも、そして受験生も同じであろう。「三年生頑張れ！」

【2月の予定】

2 /	5 (土)	土曜授業 (中止)	24 (木)	学年末考査 (学・理・社・音)
	17 (木)	理科出前授業 (1)	25 (金)	学年末考査 (学・英・保体・美)
	18 (金)	新入生保護者説明会 15:00~	28 (月)	学年末考査 (学・国・数・技家)

《1月のアルバム》

《始業式〔オンライン開催〕》1月11日（火）



《2年生スキー移動教室 菅平高原スキー場》

1月26日（水）～28日（金）

